

## 道徳性の発達に関する研究（8）

大学生におけるセクハライメージについて

佐藤 公代

（教育心理学教室）

（平成15年10月23日受理）

### Study on the Moral Development (8)

Kimiyo SATOU

#### （問題と目的）

佐藤（2002，2003）は、「道徳性の発達に関する研究（6）-セクハラ，ストーカー問題に対する大学生の意識について-」と「道徳性の発達に関する研究（7）-セクハラ防止のために-」の研究において，セクハラ問題について考えてきた。今回は，セクハラと聞いて，どんなイメージをもつかについて，大学生対象にSD法を用いて，「セクハライメージ調査」「セクハラにあわないための注意点」「セクハラをする人の心理」について考える。

仮説は次の通りである。

- （1）セクハラと聞いてのイメージは，「暗い，いやらしい，不潔な，しつこい」などの否定的な印象があげられるであろう。
- （2）セクハラにあわないための注意点として，「距離間を持った対人関係，信頼関係，いじめの構造との類似性」などがあげられるであろう。
- （3）セクハラをする人の心理として，「しつこい性格，性の商品化に対して関心がある，大脳の旧皮質が優位である。」などがあげられるであろう。

#### （方 法）

- 1）調査期日：2002年6月3日，5日
- 2）対象者：E大学生158名（男75名，女83名）
- 3）手続き：調査用紙を作成しSD法で回答させた。自由記述をさせた後，調査項目を作る方法が一般的であるが，今回は，そこを省略して，筆者が考えうる限りの項目を作成した。非常に肯定（1），肯定（2），どちらでもない（3），否定（4），非常に否定（5）の5段階

評定とした。

## (結果と考察)

表1にセクハラと聞いているイメージの評価についての平均点を示す。

表1 セクハラと聞いているイメージの評価についての平均点

	男	女	計		男	女	計
いやらしい	1.5	1.4	1.4	いやらしくない	4.1	4.6	4.4
気持ち悪い	1.8	1.3	1.5	気持ちよい	4.1	4.8	4.5
不満な	1.9	1.5	1.7	満足な	4.2	4.6	4.4
不潔な	1.9	1.5	1.7	清潔な	4.3	4.8	4.6
暗い	2.3	2.0	2.1	明るい	4.1	4.4	4.3
楽しくない	2.1	1.5	1.8	楽しい	4.0	4.7	4.3
馬鹿な	1.5	1.4	1.5	利口な	4.4	4.6	4.5
しつこい	1.9	1.6	1.7	淡泊な	4.0	4.4	4.2

表1から、男女とも「非常に肯定的」、「肯定的」なのは、「いやらしい」「気持ち悪い」「不満な」「不潔な」「暗い」「楽しくない」「馬鹿な」「しつこい」である。逆に、男女とも「非常に否定的」、「否定的」なのは、「いやらしくない」「気持ちよい」「満足な」「清潔な」「明るい」「楽しい」「利口な」「淡泊な」であり、はっきりと、セクハラに対する嫌悪感をあらわし、曖昧な態度をとっていない。その点、大学生のセクハラに対する道徳判断は正しく、正常な脳の発達をしていることが明らかになった。

表2にセクハラにあわないための注意点の評価についての平均点を示す。

表2 セクハラにあわないための注意点の評価についての平均点

	男	女	計		男	女	計
人とのつきあいに距離を保つ	3.1	3.1	3.1	誰とも親密につきあう	3.1	3.5	3.3
人との信頼関係をくずさない	2.6	2.4	2.5	信頼関係は関係ない	3.1	3.0	3.0
人の好き嫌いをもたない	3.1	3.2	3.1	好き嫌いを極端にする	3.4	3.8	3.6
第一印象を大事にする	3.1	3.3	3.2	第一印象は関係ない	2.9	2.5	2.7
セクハラをする人のストレスを考える	3.6	3.5	3.5	ストレスは関係ない	2.7	2.8	2.8
いじめの構造に似ていると思う	3.1	2.6	2.8	いじめの構造には似ていない	2.8	3.2	3.0

表2から、四捨五入してみると、「人との信頼関係をくずさない」が女性で「肯定的」、「セクハラをする人のストレスを考える」が男女とも「否定」、「好き嫌いを極端にする」が、女性と合計で「否定」となっただけで、残りは、すべて「どちらでもない」である。「人とのつきあいに距離を保つ」「人との信頼関係をくずさない」「人の好き嫌いをもたない」「第一印象を大事にする」「セクハラをする人のストレスを考える」「いじめの構造に似ていると思う」に対し、「誰とも親密につきあう」「信頼関係は関係ない」「好き嫌いを極端にする」「第一印象は関係ない」「ストレスは関係ない」「いじめの構造には似ていない」が「どちらでもない」の

判断を大学生がしたことについて、セクハラにあわないための注意点になっていなかったのか、それとも、羅列的なので、論理的に考えられなかったのか、今後の課題である。今後は、物語理解の課題を作成して、論理的思考の観点から追求していく必要がある。

表３にセクハラをする人の心理の評価についての平均点を示す。

表３ セクハラをする人の心理の評価についての平均点

	男	女	計		男	女	計
しつこい性格である	2.5	2.2	2.3	しつこい性格は関係ない	3.3	3.4	3.4
大脳の旧皮質が優位である	2.8	2.7	2.8	大脳の旧皮質が優位である	3.3	3.2	3.3
性の商品化に対して関心がある	2.6	2.4	2.5	性の商品化に対して関心はない	3.4	3.5	3.4
暗い性格の人である	3.0	2.8	2.9	暗い性格の人には関係ない	3.0	3.1	3.1
お人好しの人である	3.6	3.7	3.6	お人好しには関係ない	2.5	2.5	2.5
自分より弱い人にあたるタイプである	2.7	2.6	2.6	弱いタイプとは関係ない	3.2	3.3	3.2

表３から、ここでも四捨五入して考える。「しつこい性格である」は、女性、合計で「肯定的」、「性の商品化に対して関心がある」は女性が「肯定的」、「性の商品化に対しては関心はない」は女性が「否定」、「お人好しの人である」は男女とも「否定」である。ここから、セクハラをする人の心理について、男女とも「お人好しの人」には、関係なく、「しつこい性格である」や、女性が「性の商品化に対して関心がある」と判断しているように、男性よりも女性の方が、敏感である。一般に男性が女性に対して、セクハラをするので、敏感さは、大事にしなければならないが、逆もありうるので、人間としての心理を解明しなければならない。残りはすべて「どちらでもない」の評価である。「しつこい性格である」は男性、「大脳の旧皮質が優位である」「性の商品化に対して関心がある」（男性、合計）「暗い性格の人である」「自分より弱い人にあたるタイプである」に対し、「しつこい性格は関係ない」「大脳の旧皮質が優位である」「性の商品化に対して関心はない」「暗い性格の人には関係ない」「お人好しには関係ない」「弱いタイプとは関係ない」は、セクハラをする人の心理に関係なかったのか、それとも、大学生が言葉を理解していなくて、どちらでもないに評価したのか、考えられる。今までのセクハラに対する筆者の研究結果からすると、大脳の旧皮質、新皮質の理解ができていなくて、どちらでもないの評価になっている。今後は、「心は脳の働きである」という前提にたって、脳の知識獲得後の判断をまっとうして、大学生のセクハラに対する正しい道徳判断をもつような教授・学習のプログラムを開発しなければならない。

以上から、仮説（１）は支持され、（２）は女性に一部支持され、（３）は一部支持された。

## （結 論）

- 1) セクハラと聞いてのイメージは、男女とも「いやらしい、気持ち悪い、不満な、不潔な、暗い、楽しくない、馬鹿な、しつこい、」の否定的なイメージをもっている。
- 2) セクハラに合わないための注意点として、「人との信頼関係をくずさない」は言える。
- 3) セクハラをする人の心理について、「しつこい性格である、性の商品化に対して関心がある、」は判断されている。

### (今後の課題)

- (1) セクハラにあわないための注意点としての道筋を論理的に考えさせる教授・学習のプログラムを考える。
- (2) セクハラをする人の性格, 環境, 等に対しての教授・学習プログラムを開発する。

### (引用文献)

佐藤公代 2002 道徳性の発達に関する研究(6) - セクハラ, ストーカー問題に対する大学生の意識について - 愛媛大学教育学部紀要 第1部 教育科学 第49巻 第1号 83 - 87

佐藤公代 2003 道徳性の発達に関する研究(7) - セクハラ防止のために - 愛媛大学教育学部紀要 第1部 教育科学 第49巻 第2号 45 - 48

なお, 今回も本論文を書くにあたって参考にした論文はないので, 筆者の引用文献2つを掲載する。

(注) 調査に協力して下さった皆様, 有り難うございました。